



くるり棒

昭和時代

千歯こきで脱穀した稲は、上手にやらないとツタツカという穂切れが出てしまいます。この穂切れをくるり棒で打って、^{もみ}籾を落とす作業をツタツカ打ちと呼びました。柄をもって棒を回転させて穂切れに打ち付けました。^{からさお}唐竿ともいいます。

郷土資料館蔵